女性医師支援センター便り

日本医師会　女性医師支援センター事業
北海道・ブロック会議報告

宮城県医師会常任理事
宮城県女性医師支援センター委員
安　藤　由紀子

日本医師会女性医師支援センター事業 北海道・東北ブロック会議が平成30年10月20日午後３時より，ホテルメトロポリタン仙台にて開催された。はじめに日本医師会常任理事小玉弘之先生からご挨拶をいただいた。医師不足，偏在の中，女性医師への支援は重要であり，働き方改革にもつながる。日本医師会としてもさらに取り組んでいきたいとの力強いお話であった。続いて宮城県医師会会長佐藤和宏先生のご挨拶の後に，宮城県女性医師支援センター長髙橋克子先生の司会で議事に入った。

小玉先生からは「日本医師会女性医師支援センター事業」についてお話をいただいた。日本医師会女性医師バンクはキャリア継続支援と復職支援の二つを大きな柱としている。就業成立件数は年々増加しており，平成27年度は47件，平成28年度は78件，平成29年度は139件であった。今年度の目標は170件である。現在関東甲信越・東京ブロックで半数以上となっているが今後は東北・北海道など地域にもしっかり目を向けていきたい。女性医師支援センターのホームページをリニューアル予定であり，さまざまな情報を発信していきたいと結ばれた。

次に北海道医師会の小林淳子課長が北海道医師会の取り組みについて発表された。医学生・若手医師キャリア検討会は若い方々が，自主的に企画から携わって開催している。ライングループを作り，メンバーが受け継がれ，人数も増加している。今後は日医女性医師バンクとさらに連携を取りながら顔の見える地域のコーディネート機能を確立していきたいとお話しされた。

小林淳子課長

青森県医師会は，青森県医師会常任理事冨山月子先生が発表された。男女参画委員会の中でワークライフバランス推進室を設置して相談窓口と託児施設のサポートを行っている。News Letter「赤いりんご」を発行し，様々な情報発信を行っている。今後は大学との連携強化をさらに進めていきたいとのことであった。

冨山月子先生

岩手県医師会では，岩手県医師会常任理事増田友之先生がお話しされた。岩手県医師会女性医部会と勤務医部会が連携して事業を推進している。臨床研修医は，100％が医師会に入会しており情報が届きやすい。女性医師会員はこの10年で72名増加した。しかし，研修終了後は他県に就職などを理由に約半数が退会していることが課題である。岩手医科大学医学生と懇談会を開催。岩手県との協議会で専従のコーディネーター配置をお願いしている。男性である先生がこんなにも力を入れてくださっているそのパ

ワーの源を質問されると，歯科医である妻に離職させてしまった自分の罪滅ぼしであるとのお話に会場は和やかな雰囲気に包まれた。

秋田県医師会は蓮沼直子男女共同参画委員会委員長が発表された。あきた女医ネットでの相談事業では大学の医師が時間給であると育休が取れないことや時短勤務だと外勤できないなどの課題が浮き彫りとなった。さらに今後は地域枠で医師になった方の地域での院内保育や病児保育が可能か，夫と勤務地がバラバラとなってしまうなどが課題となってくる。キャリアカフェ，病院訪問や医学生，研修医をサポートする会など続けていきたいとのことであった。

増田友之先生

山形県医師会は山形県医師会副会長神村裕子先生がお話しされた。病院勤務医の勤務環境に関する調査の結果，時短勤務は若い女性だけではなく60歳以上の男性の比率が高い。週40時間未満の非常勤勤務は男性では60歳以上に多いが女性では40歳から55歳の年代が多い。出産育児などで離職してしまった方が常勤に戻れない実態がある。①育児のため ②配偶者の転勤のため ③家族，家事との両立が困難なための３つの理由で76％を占めていた。仕事を続けていくために一番大切なことはモチベーションの維持であり，ロールモデルの提示を試みているとのことであった。

蓮沼直子先生

福島県医師会からは常任理事で男女共同参画・医師支援委員会委員長の新妻和雄先生がお話しされた。震災後根本的に絶対的な医師不足の中ではあるがキャリアサポート，勤務環境に関するアンケート作成，福島県医師会イクボス宣言の作成・配布，女性活躍応援会議への参画などを行っている。やはりトップの意識改革が重要であると話された。

神村裕子先生

宮城県医師会からは安藤が発表した。宮城県女性医師支援センターでは男女共同参画のための支援セミナーを年１回開催し，今年度で12回目となる。昨年は，はじめてイクボス大賞（施設），イクボス特別賞（個人）を表彰した。また，医学生・研修医支援セミナーを東北大学にて開催している。身近にロールモデルを知ることにより皆が頑張れる環境づくりに一役かっている。また，センター委員が積極的に県内の病院に出向き意見交換会を行っている。これは，イクボスの増加にかなり役立っていると思われる。今後も若い医師や医学生への働きかけ，キャリア形成や研究支援，就業支援，離職防止支援，復職支援，勤務環境の整備，指導的立場・意思決定機関への女性医師の参画，出産育児支援，介護支援などに取り組んでいきたい。

新妻和雄先生

平成30年度女性医師支援担当者連絡会における女性医師支援センター事業ブロック別会議の報告は，今年は青森県医師会，来年は福島県医師会が担当することとなった。また，平成31年度のこの会議は青森県医師会が担当となった。日本医師会女性医師支援センターと連携し，それぞれの地域の課題に取り組んでいくことがこれからも大切であると感じた。

安藤由紀子先生